

日銀は米欧の教訓を学ぶか

BNPパリバ証券チーフエコノミスト

河野の
河野 龍太郎



*世界的なインフレの原因は過剰な財政政策

*依然、引締め効果が弱いアメリカ

*パウエルFRBの利下げへの政策スタンス

*高金利下でのアメリカの株高

*日本は高めのインフレと賃金上昇が続く

*働き方改革による人手不足の影響大

*犠牲にされた個人消費

*続くインフレと日銀の利上げ動向

*日本経済が円安シフトした理由

*実は始まっているインフレタックス

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は河野龍太郎先生にお越しいただきました。先生は現在、BNPパリバ証券チーフエコノミスト、経済調査本部長でいらっしやいます。

『日経ヴェリタス』でエコノミストの人気ランキングがありますが、2023年を含めまして4年連続で首位、通算で11回首位を取っていて、非常に人気のあるエコノミストとして経済の世界ではよく知られていらっしやいます。

情報発信や提言というところにも非常に力を注いでいらして、政府の審議会等にも出て提言をされたり、それから本も書いていらっしやいます。この『成長の臨界』はかなり厚い本ですが、慶應義塾大学出版会から2022年に出されておられます。それから、連続して書くのは

大変ですが、引き続き2023年に『グローバルインフレーションの深層』という本をやはり慶應義塾大学出版会から出されています。今日は慶應義塾大学出版会から来ていただいてご本を紹介しておりますので、ご興味のある方はご覧になってください。

先ほちょっと伺いましたら、先生は頻繁に海外出張されることが多いわけですが、コロナのときはそれがなかったもので、この本をじっくり書かれたようです。また最近出張を再開されて、海外の方の日本に関する関心も高まっているというお話でした。

今日は、いつも非常に構造的、それから歴史も踏まえたお話をされると思いますので、目先のことだけでなく大きな流れについてもいろいろ